

## 平成 30 年度 学校 総合 評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校は、より多元的な視点を持つ総合的な人間力の育成を目指している。そのためには、知識や技術を習得するだけでなく、自ら積極的に表現する力、自ら課題を見つけ主体的に取り組む資質の向上が必要となる。将来、国際社会において探究力、自己発信力を備えた真のリーダーとして活躍する素養を育成する取り組みを継続している。これを受け、今年度の具体的重点目標として5分野9項目の目標を掲げた。

「学力の向上」では、各種テストを見直す意識が強くなった生徒は 85%と目標に達したが、できなかった分野の復習を学習計画に取り入れている生徒は昨年と同じく 70%にとどまった。要因として、課題や予習に多くの時間がとられてしまうことなどがあげられる。

「進路意識の高揚と進路希望の実現」では、大学探訪や進路講演会への満足感はいずれも 90%を超えた。進路希望の実現では、第1志望（12月時点）を実現した生徒は 30%であった。「第1志望をあきらめない」の精神のもと、来年度再挑戦をする生徒も多くいる。

「読書指導・体力の向上」では、ホームルームで実施する読書の時間が 15 時間と目標に達した。これは、全教職員の共通理解により読書時間が確保できたことによるものである。体力の向上においては、昨年より数値は低いものの、77%の生徒が2年次で持久力の自己最高記録を更新した。

「学校行事・部活動の充実」では、体育大会や部活動（3年生対象）の満足度はいずれも 90%を超え、目標値を大きく上回った。

「探究力・科学的思考力・自己発信力の育成」では、アメリカ研修前後の CASEC テストで、20 点以上伸びた生徒は 43%にとどまり、目標には達しなかった。しかし、研修そのものの目的は達成されたと思われる。

今後とも、生徒・保護者・地域・社会の期待に応え「日本を代表する優れた人材の輩出校であり続ける」ために、「計画・実行・検証」の学校評価システムを確立し、充実した教育活動を展開していきたい。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

スーパーサイエンスハイスクール事業が1期目を終え、2期目を申請中だが、これまで行ってきた探究科学科を中心とした探究的な学習活動を一層充実させることに加え、生徒の学習意欲を高める学習指導や高い意識を持たせる進路指導についてもさらに検討を加えていきたい。

生徒の学力向上を目ざすことはもちろん、学校行事や部活動の充実を継続して図り、健全な心身・優れた知性・豊かな情操を培い、民主的で自主性・創造性に満ちた人間の育成に努めていきたい。